公益財団法人 日本ハンドボール協会編　平成27年12月1日発行（毎月1回1日発行）通巻556号

ハンドボール

12月号
DEC. 2015 No.556

特集
リオデジャネイロ・オリンピック 女子アジア予選
第70回 国民体育大会





［表紙写真］リオデジャネイロ・オリンピック女子アジア予選、日本対韓国戦より

公益財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.or.jp/


ANA

平成27年度第67回日本選手権開催とリオデジャネイロオリンピック女子アジア予選大会について



公益財団法人 日本ハンドボール協会常務理事　競技本部長　**江成 元伸**

12月22日から開催の第67回日本ハンドボール選手権大会は、いくつかの大会名称を変遷しながら変化・発展を遂げてきた大会であり、漸くにして公益財団法人日本ハンドボール協会（以下、本協会という）の加盟団体である各都道府県ハンドボール協会加盟の代表チームが各ブロックの代表として出場し、日本リーグチーム、本協会推薦として学連代表チームを加えての真の日本一を決定する大会としてリニューアルすることができました。

この大会には、日本リーグ、学連代表チーム、一般A、大学、高専、高校のチームが参加します。特に女子は、北信越ブロックから高校チームが出場権を得たことは特筆すべき出来事だと思います。本大会は、トーナメント型で国内の単独クラブチームの日本一を決定する大会です。トーナメント型で日本一を決定する大会としては国民体育大会がありますが、国体は年齢別であり、単独のクラブチームとは限りません。また、日本リーグのチャンピオンはリーグ戦型の日本一を決定する大会として位置づけられており、本大会はまさにトーナメント型大会として日本ハンドボール界の最高峰に位置づけられます。

従来の参加チーム数から男女ともに8チーム増やし、多くのブロックから出場するチームが増えました。今回がこの方式に変更しての第1回であり、昨年の全日本総合ハンドボール選手権大会と同様に愛知県名古屋市で開催され、翌、平成28年度は東京都で開催されます。平成29年度以降は決定するに至っていませんが、おおむね東京、大阪、愛知という都府県での開催で計画を進めたいと考えています。そして、できるだけ近い将来には、全都道府県ハンドボール協会47チームに加えて日本リーグのチームや学連のチームが日本選手権を目指して、各地で対戦する選手権大会を展開するようにしたいと計画を推進していきます。

一方、平成27年10月、愛知県名古屋市においてリオデジャネイロオリンピックハンドボール競技女子アジア予選を開催しました。結果は大変残念でしたが宿敵韓国に敗れ、平成27年12月にデンマークで開催される女子世界選手権の優勝、もしくは平成28年3月に開催される世界最終予選での戦いにより、オリンピックの出場権の獲得に向けて更なる挑戦をすることになりました。

この愛知・名古屋大会は多くの観客の皆様に足を運んでいただき、最終日は愛知県体育館がほぼ超満員となるほど多くのファンに応援をしていただきました。大会終了時の表彰式、その後のフェアウェルパーティ、大会終了後、アジアハンドボール連盟から大会成功に関する賞賛の言葉をいただくことができました。この大会の運営方式は国際大会の大会運営マニュアルとして残し、今後の国際大会の運営のレベルアップを目指すところであります。これらの成果を踏まえ、2019年の熊本の女子世界選手権大会、2020年の東京オリンピックの大会運営の一助になればと思っています。

日本のハンドボールの発展には、一つは強化で優秀な成績を得ること、一つは全国で展開するそれぞれの規模の大会での盛り上がりを得ることが不可欠です。ハンドボール活動をしている競技者、ハンドボールファンの皆様におかれましては、それぞれのチームでハンドボールを楽しみ、強くなり、そしてそれぞれの代表チームを応援してハンドボールを盛り上げていただきたいと切に願っております。

リオデジャネイロ・オリンピック

ASIAN WOMEN'S QUALIFICATION FOR OLYMPIC GAMES BRAZIL 2016

ハンドボール競技女子アジア予選

大会期間：2015年10月20日(火)－25日(日)

開催都市：愛知県・名古屋市・愛知県体育館

リオ五輪出場権獲得は持ち越し

2015年10月20日㈫から25日㈰、愛知県・名古屋市・愛知県体育館で開催された「リオデジャネイロ・オリンピックハンドボール競技女子アジア予選」は、5ヶ国（韓国、日本、中国、カザフスタン、ウズベキスタン）が参加、1回総当りのリーグ戦が展開された。順調に勝ち進んだ日本は、地元4000名を越す大観衆の中で、韓国との全勝対決に臨んだが21対35で敗れ、1976年モントリオール大会以来、40年ぶりの五輪出場権獲得はならなかった。4戦全勝で1位の韓国はアジア代表として五輪出場が決定した。

今後の日本は、2015年12月5日㈯から20日㈰デンマークで開催の第22回女子世界選手権（デンマーク：24カ国参加）に出場、優勝すればリオ出場が確定する。若しくは、韓国の優勝ならアジア2位の日本が繰り上がりで出場権を得る。更に、IHFオリンピック女子世界最終予選（3月17日㈭－3月20日㈰：開催場所未定）にて、4カ国ずつ3組に分かれ各組2位以内となれば、リオ出場が決まる。

最終順位　優勝：韓国　**2位：日本**　3位：中国　4位：カザフスタン　5位：ウズベキスタン

星取表

女子		KOR	JPN	CHN	KAZ	UZB	数	勝-分-敗	得点	失点	差	点
1位	韓国（KOR）		35○21	34○22	35○24	56○15	4	4-0-0	160	82	78	8
2位	日本（JPN）	21●35		29○19	24○23	51○17	4	3-0-1	125	94	31	6
3位	中国（CHN）	22●34	19●29		28○18	37○21	4	2-0-2	106	102	4	4
4位	カザフスタン（KAZ）	24●35	23●24	18●28		38○27	4	1-0-3	103	114	-11	2
5位	ウズベキスタン（UZB）	15●56	17●51	21●37	27●38		4	0-0-4	80	182	-102	0

選手団名簿

	名前	所属	
団長	渡邊　佳英	（公財）日本ハンドボール協会	
監督	栗山　雅倫	（公財）日本ハンドボール協会	東海大学
コーチ	大森　聡	（公財）日本ハンドボール協会	高岡高陵高校
コーチ	勝田　祥子	（公財）日本ハンドボール協会	オムロン
トレーナー	高野内　俊也	（公財）日本ハンドボール協会	一般社団法人 日本予防医学協会
ドクター	永澤　雷太	（公財）日本ハンドボール協会	ながさわ整形外科クリニック
分析	小笠原　一生	（公財）日本ハンドボール協会	大阪大学

No.	名前	所属	国際試合	得点
1	飛田　季実子	ソニーセミコンダクタ	95	0
3	本多　恵	ソニーセミコンダクタ	70	157
5	田中　美音子	ソニーセミコンダクタ	139	603
6	石野　実加子	北國銀行	20	30
7	錦織　新	ソニーセミコンダクタ	22	34
9	横嶋　かおる	北國銀行	48	109
10	藤井　紫緒	宣真高等学校（教員）	106	540
14	横嶋　彩	北國銀行	13	33
15	角南　唯	北國銀行	13	41
16	白石　さと	オムロン	10	0
17	東濱　裕子	オムロン	129	336
18	田邉　夕貴	Fehervar KC (HUN)	27	87
19	池原　綾香	三重バイオレットアイリス	7	9
20	石立　真悠子	Fehervar KC (HUN)	62	135
21	相澤　莉乃	オムロン	10	31
22	藤間　かおり	オムロン	75	0
24	原　希美	三重バイオレットアイリス	30	65
26	川村　杏奈	ソニーセミコンダクタ	12	16
27	塩田　沙代	北國銀行	18	12
28	永田　しおり	オムロン	50	37
29	松村　杏里	広島メイプルレッズ	10	46
30	亀谷　さくら	Vipers kristiansand (NOR)	0	0



鈴木大地スポーツ庁長官が日本対中国戦の観戦に訪れ、試合後に選手達を激励されました。

リオデジャネイロオリンピック・女子アジア予選を振り返り

（公財）日本ハンドボール協会 強化本部長　田口　隆

リオデジャネイロオリンピック・アジア予選において女子日本代表は韓国に次いで第２位という結果で、アジア予選において出場権獲得とはなりませんでした。まずもって、強化の責任者として“韓国に勝って、アジア予選でオリンピック出場権を獲得する”という大会前の目標を達成することが出来ず、大変残念で申し訳なく心よりお詫び申し上げます。

女子代表は今後、世界最終予選においてオリンピックの出場権獲得を目指すこととなります。そういった中で、今回のアジア予選での成果としては“高さ”のある中国・カザフスタンに対しては、持ち味である積極的なディフェンスとゴールキーパー陣の活躍で、大きくチーム力が上がったと評価出来ると思います。積極的なディフェンスから奪ったボールを速攻につなげられたことも数多くありました。一方、“高さ”だけでなく、“スピード”“巧みさ”を兼ね備えた韓国には大差で敗れたことも事実です。韓国のスピード＆巧みさに翻弄され、持ち味である『積極性』が影を潜めてしまいました。相手にスペースを与えた時の“スピード封じ”、スペースを消した時のエリア際での積極性・激しさ、“巧みさ”には巧みさを持って勝負を挑むべく個人の戦術力、確実な得点チャンスでの高確率で決められるシュート力等、今大会に備えて蓄えてきた力を更にワンランクアップさせることが今後の課題となってきます。

今後の強化としましては、12月にデンマークで開催される第22回女子世界選手権で“高さ”“スピード”“巧みさ”に対抗出来るディフェンスの再構築と、オフェンスにおいてはいかにスペースを生み出し“スピード”を活かした展開をするか実戦を通して力をつけていきたいと思います。３月の世界最終予選で予想される相手は欧州の上位国となります。大型選手対策を進めることはもとより、ここで大きく方向展開するのではなく、《TOTAL MOBILITY》を更に向上させることで対応力向上に繋がると確信しています。現場スタッフ・選手の更なる努力に期待するとともに、私をはじめとする強化本部のメンバー、さらには日本ハンドボール協会全体でバックアップし、悲願のオリンピック出場を目指して取り組んでまいります。

最後に、アジア予選会場である愛知県体育館に足をお運びいただき応援していただいた方々、全国から応援いただいた方々、立派な大会運営をしていただいた愛知県協会をはじめとする方々、スポンサーの方々からの多くのご支援・ご声援に対して、女子日本代表「おりひめジャパン」は必ず成長した姿で世界最終予選を戦うことを全国の皆さんにお約束します。今後とも、変わらぬご支援・ご声援を宜しくお願い申し上げます。



戦評

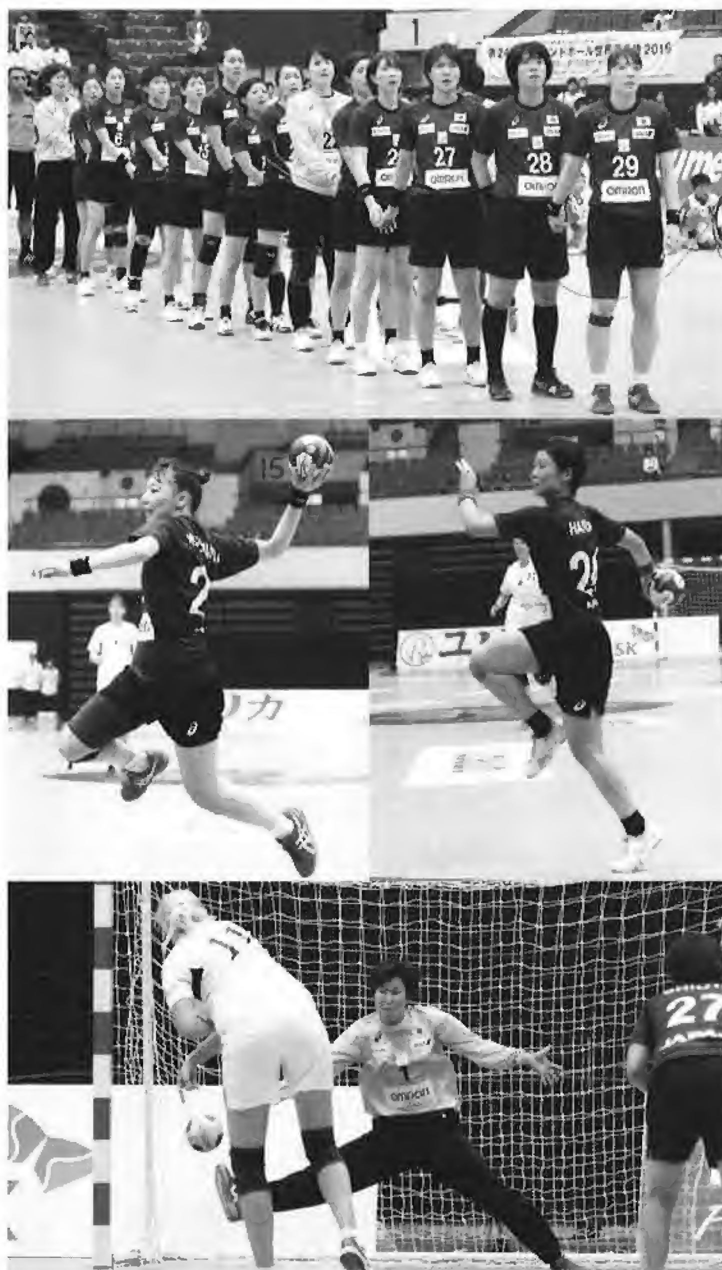
■10月20日（火）

日本　51（25－10, 26－7）17　ウズベキスタン

日本のオリンピック出場をかけた初戦の相手はウズベキスタン。ウズベキスタンは長身を活かした6：0ディフェンスとダブルポストで攻める。それに対し序盤から日本は機動力を活かした積極的なディフェンスで相手のミスを誘い速攻につなげる。日本は角南の速攻を皮切りに、本多、原、横嶋（か）が得点を重ね、前半9分にウズベキスタンがタイムアウトを取った時には8対2とリードを広げた。ウズベキスタンもサイド攻撃や力強いカットインで応戦するが、17番の退場時には日本が速攻で3連取するなど着実にリードを広げる。前半で25対10と大差をつけた。

後半に入っても日本のディフェンスは止まらない。セット攻撃では司令塔に田中を入れるなど幅広いクロスを織り交ぜた展開で東濱のミドル、横嶋のポストシュートなど多彩な攻撃を見せた。ウズベキスタンも11番のポストシュートなどで得点するも、連続得点にならず、5番のミドルシュートも日本のゴールキーパー飛田のナイスセーブなどディフェンスとゴールキーパーとの連携も冴え、足の止まってきたウズベキスタンに対し更にディフェンスラインを上げるなど試合全般にわたり日本の戦い方の特徴がよく出たゲームで51対17と大差で日本が勝利した。

個人得点　松村：11点、原：8点、本多：6点、池原：5点、角南：4点、藤井：3点、田中・石野・横嶋（か）・東濱・石立・川村：2点、塩田・永田：1点



戦評

■10月21日（水）

日本　29（13－11, 16－8）19　中国



昨日の初戦を白星でスタートさせた両チーム、明日以降に控える韓国戦に向けてどちらも落とすことができない一戦は日本のスローオフでスタート。開始1分中国が27番のサイドシュートで先取点を挙げる。対する日本は速いパスワークからシュートまではいくが決まらない状況が続き、前半3分に石立のミドルシュートでようやくスコアを動かす。その後はお互いにミスが続き点の入らない時間が続く。中国は高さを生かしてポストを中心に攻めようとするがブロックファールを度々取られ、リズムをつかめない。日本はGK飛田のナイスセーブで何度もピンチをしのぎながらチャンスをうかがう。前半7分中国に2分間退場が出たことを皮切りに日本が連取に成功。4対1とリードする。その後は互いに退場者を出しながらも一進一退の攻防をくり広げ、13対11と日本のリードで折り返す。

後半は立ち上がりから日本がOF、DFともに豊富な運動量とスピードで効果的に連続得点をあげ、着実にリードを広げていく。中国も何とかシュートまでもっていくがGK亀谷のナイスセーブが続き、流れを引き寄せることができない。後半22分には石立にマンツーマンDFをしかけるが、日本は広くなったスペースを使い、サイド、ポストシュートでリードを広げる。後半24分には田中のカットイン、田邊のサイドなどで4連取しゲームを決めた。1試合通してGKの活躍と日本のスピードが光った試合は29対19で日本が勝利し、2連勝とした。

個人得点　本多・横嶋（か）・東濱：5点，角南：4点、田邉：3点、田中：2点、石野・藤井・石立・原・松村：1点

戦評

■10月24日（土）

日本　24（13－11, 11－12）23　カザフスタン

前半立ち上がり両チームともにDFが機能し一進一退の攻防が続く。そんな中先に流れを掴んだのは日本。前半6分角南のサイドシュートを皮切りに、原の速攻などで5連続得点をあげる。カザフスタンも体格差を活かしたプレーでチャンスを作り得点をあげるもなかなか点差を縮めることができない。その後、日本はシュートチャンスを作るもカザフスタンのGK12番の好守に阻まれ決めきることができず苦しい時間帯が続く。その間に着実に得点を重ねたカザフスタンが徐々に点差を縮め、13対11の日本2点リードで前半を折り返す。

後半になってもシュートミスの目立つ日本に対し、カザフスタンは20番のポストシュート、15番のロングシュートなどで3連続得点をあげ逆転。そんな日本の悪い流れを変えたのは藤井。スピードを活かしたカットインシュートを決め日本に流れをもちこむ。それに原、田邊も続き再度2点差に広げる。さらに点差を広げたい日本だが、ミスがつづき点差を広げることができない。その間に日本のアグレッシブなDFの裏をつき得点を上げたカザフスタンが後半15分再度同点に追いつく。その後もカザフスタンは15番を中心に得点をあげ後半22分19対21と逆に2点差に広げる。なんとかくらいつきたい日本は原を中心に連続得点をあげ同点に追いつく。その後も一進一退の攻防が続き同点のまま迎えた後半29分日本はタイムアウトを要求。その後の攻撃で横嶋（か）が決勝点をあげ24対23で日本が勝利した。

個人得点　原：7点、横嶋（か）・藤井：5点、田邉：4点、角南・池原・松村：1点



戦評

■10月25日（日）

日本　21（11－17, 10－18）35　韓国

リオデジャネイロオリンピック予選最終日。40年ぶりのオリンピック出場を目指す日本とアジア最強国の韓国との全勝対決。日本開催ということもあり、観客は日本を応援する青色のユニフォームで染まった。また、会場全体が日本の勝利を期待する熱気に包まれた。

韓国のスローオフで試合開始。日本は3-2-1DFで守り、韓国は6-0DF。先制点は韓国、日本のDFの裏をポストがうまく使い得点した。すぐに日本も7mスローを獲得するが、外してしまう。その後、韓国に連続得点を許す。日本は、原のカットインで得点し、日本ペースにもっていこうとするが、韓国の3連続得点で1対6となり、たまらず日本はタイムアウトを請求。タイムアウト以降は韓国11番にシュートを決められると日本は、石立の得点で返す展開で韓国に食らいつく。日本は追い上げようとするが、韓国GKがナイスセーブを連発し、なかなか得点できずに韓国に6点差をつけられ前半を11対17で終了した。

後半、日本はDFが積極的に動き、リズムをつかみ連続得点するもDF時の反則で退場者を多く出してしまい、韓国23番の3連続得点で逆に点差を広げられてしまう。点差を縮めたい日本だがOFのパスミス、シュートミスが連続し、点差が縮まらない。韓国は11番や23番を中心に効率良く得点をあげ、ゲームを組み立てた。逆転したい日本だが、その気持ちが焦りとなりミスが多くでてしまい、韓国に21対35で敗れた。日本は世界最終予選にまわることとなった。

個人得点　藤井：6点、横嶋（か）・原：3点、角南・東濱・石立・松村：2点、本多：1点



オリンピック予選の周辺を見る

10月20日から25日まで名古屋市で、リオデジャネイロオリンピック予選が開催された。結果は、韓国が圧倒的な強さを見せ、オリンピックチケットを手に入れた。ホスト国日本もモントリオールオリンピック以来の出場権を目指したが、残念ながら2位にとどまり、世界最終予選に廻ることになった。ナショナルチームのパフォーマンス結果や大会状況については、それぞれの所管から報告がなされ、評価されると思われるので、ここでは大会周辺にあった、目立たないが重要なイベントについてレポートする。

日本ハンドボール界悲願のオリンピック出場は、今回夢を見ている状況から、現実に近づいて来た大会となっていた。そして、出場さえかなえば、普及問題を含め日本ハンドボール界の問題が解決されると言う意見があった。デンマーク女子がアテネオリンピックで金メダルを獲得した時、デンマーク協会のある関係者は、金メダルを獲得したので、競技者登録が2000人増加したと喜んでいた。

しかしながら、オリンピック出場は予選大会だけで決まる訳ではないことは今や自明のことである。また、ナショナルチームの努力のみにて決まる訳でもない。すでに世界の状況は、長い期間を掛けての選手育成がポイントとなっている。日本では学校部活制度がネックとなっているとの意見もあるが、サッカーのオシム氏は、この学校部活動制度の中での選手育成を素晴らしい制度であると言っている。と言うことは、ある一面から見れば学校部活動の仕方によっては、充分に世界に通じる選手育成が行えるとも言える。そのためには、指導者の連携、情報共有が不可欠となる。

このような観点から、今回２つの研修会が計画されたことは、大変に興味深い。ひとつはレフェリーセミナー、もう一つは応援コーチセミナーである。国際大会が開催されたときには、過去にも国際的なセミナーが開催されているが、普段得られない国際的な情報を得るための良い機会となっている。ユーロ選手権でも、予選ラウンドが終了した時点で、各チームの戦術分析を発表した例があることが機関誌にも掲載されている。ここでは、応援コーチセミナーについて取材をしたので報告する。

「応援コーチセミナー」から



まず、三輪普及指導本部長の「昨日のカザフスタン戦で負けていたら、今日の研修会はぶっ飛んでいました。」という挨拶で始まった。

続いて、吉村委員より韓国の特長である速攻の分析が発表された。相手のミスを誘うディフェンスから、直線的に早い速攻で、１試合を通して走り切る体力を持っていることが注目される。さらに、セットオフェンスでの注目選手として、まずキム・オナ選手が挙げられた。体はそれほど大きくはないが、センタープレーヤーとしての展開力が注目される。そして、左右のバックプレーヤーの、シム・ヘイン選手とリュウ・ウンヒ選手のプレーとサイドのイ・ウンビ選手のプレーについて分析がなされた。

この後、韓国事情に詳しい、北林氏より補足がなされ、若干の討論がなされたが、試合前という事もあり日本の考えを明らかに出来ないとのことで、深くは議論できないとの意見もあった。ここの一部ではサイドのイ・ウンヒ選手をどう抑え込むかということが話されたが、実際のゲームでは１点に抑えている。このことをどう解釈するかは非常に興味深いところである。また、北林氏からはゴールキーパーの立場からのキーピングに関する指摘もあった。

続いて、藤本指導委員長から、日本の特徴について発表があった。アジア大会の分析から日本の特長を明らかにし、ディフェンス、オフェンスのコンセプトについて報告がなされた。体格で一番劣る日本が、優位に立つスキルとモビリティーを活かし、ポストや近い間合いでのカットインを狙いとした戦略で戦う。そして、日本の注目選手として、ポストの横嶋、センターの石立、ディフェンスの永田が挙げられた。

最後に、学ぶ機会を増やしたい、指導委員会として講習会講師派遣をして行く、協会独自のH級指導者資格を設置するなどの報告があり、また、資格を持って指導して戴きたい事が述べられて閉会となった。この後、参加者は日本・韓国戦観戦のため愛知県体育館へと向かった。

研修会は、活発な議論もあり盛況であった。今回だけで大きな成果が出るとは思われないが、今回の様な機会をとらえて数多くの研修会が開催されれば、多くの指導者に情報の共通理解が徐々に出来上がっていくはずである。これらの共有情報が体系化されていることは大切な要素であるが、最後に指導委員長から述べられたようなことが実現されれば、学校部活動で切れ切れになっている選手育成が一貫化出来、長期的視野に立つ選手育成となり成果が期待できる。最後に、今研修会は公認指導者の義務研修にあたるとのアナウンスがされていたが、途中で削除されている。これは、公認指導者の参加へのインセンティブに成り得るので、プログラムの工夫をお願いしたい。

第70回
国民体育大会
ハンドボール競技

開催期日：平成27年9月28日(月)～10月2日(金)

会　　場：和歌山ビッグホエール

和歌山市立河南総合体育館

紀の川市民体育館

岩出市立体育館

2点共【写真提供】スポーツイベント社

最終順位

種別	1位	2位	3位	4位	5位
成年男子	埼玉県	愛知県	広島県	宮城県	三重県、山梨県、大阪府、和歌山県
成年女子	石川県	鹿児島県	熊本県	広島県	香川県、大阪府、茨城県、和歌山県
少年男子	大分県	富山県	山口県	愛知県	香川県、熊本県、兵庫県、大阪府
少年女子	東京都	茨城県	岡山県	大阪府	福岡県、三重県、山口県、熊本県

種別	1位	2位	3位	5位	6位	7位	
男女総合成績	大阪府	愛知県	広島県、熊本県	茨城県	山口県	埼玉県、東京都、石川県、大分県	
種別	1位	2位	3位	5位	6位	7位	8位
女子総合成績	茨城県	熊本県	東京都、石川県	大阪府	鹿児島県	岡山県	広島県

『紀の国わかやま国体』を振り返り

和歌山県ハンドボール協会事務局長　山本 隆重

第70回国民体育大会「紀の国わかやま国体」を無事に終えることができたことは、私たち和歌山県ハンドボール協会にとって貴重な財産となった。

大会は、9月28日（月）から10月2日（金）の5日間で行われた。全てが平日であること、台風等が心配される時期であることなど、準備段階から不安が多い状況ではあったが、県内外の方々の心強いご協力のおかげで、競技運営をスムーズに行うことができた。思い返せば昨年のリハーサル大会として開催したジャパンオープン。台風が直撃し、高校生補助員が動員できず、体育館の雨漏りもあった中での大会を経験したわけだが、今回も1週間ほど前に、日本の南で台風が発生したという情報が入って非常にハラハラしたものの、幸い期間中は好天に恵まれた。

競技は、成年男子では、オリンピック予選を前にした体制の中で、安定した戦いぶりで勝ち上がってきた埼玉県が4連覇、成年女子では決勝で追いすがる鹿児島県を振り切った石川県が3連覇を果たした。少年男子では、準決勝で山口県とのシーソーゲームを制し、決勝で前評判の高かった富山県を下した大分県が見事に初の栄冠を獲得、少年女子は、準々決勝、準決勝と2度の延長戦を勝ち抜いた東京都が、決勝でも最後まで目の離せない接戦をものにして10年ぶりの優勝となった。総合成績では、男女総合の天皇杯を大阪府が、女子総合の皇后杯を茨城県がそれぞれ獲得した。

地元の和歌山県選手団も、会場を大いに沸かせてくれた。成年男女ともに、初戦を勝ち抜いてベスト8に進出し、準々決勝でも強豪チーム相手に堂々と渡り合った。惜しくも初戦で敗れはしたものの、少年男子は強豪富山県を練習してきた高めのディフェンスで苦しめ、少年女子は前半をリードで折り返す展開を見せてくれた。

和歌山県はハンドボールに関わる環境が整っている地域とは言えない。大きな大会を実施した経験も少ない中で、5日間ではあったが、トップクラスの選手たちの迫力あるプレーと、数々の名試合が繰り広げられたことは、間違いなく和歌山県にとって素晴らしい財産になると確信している。地元チームの活躍もあり、ハンドボールを知らなかった人、特に子供たちに、ハンドボールの面白さを広めることができたと思う。

大会を終え、大会を振り返る今、国体開催で得た経験という財産を、今後の和歌山県のハンドボール界にどう活かしていくか、和歌山県ハンドボール協会では次の段階に向けて検討しているところである。幅広い年代で、より多くの地域で、ハンドボールに親しめる環境を作り、競技の魅力を発信していくこと、そしてそこから強化を進めていくことが、地方のハンドボール界が取り組める、また取り組むべき課題であると考えている。

最後になったが、経験の少ない私たちを長期に渡りご指導いただいた日本ハンドボール協会の皆さま、貴重な経験を伝えてくださった長崎県をはじめ先催県の方々、人材不足の私たちにご協力くださった近畿各府県の方々、そして県内の多くの仲間たちに、この場を借りて感謝の意を表したいと思う。そして、70回のバトンを繋いできた国体の一部を担えたことを誇りに思い、岩手県・愛媛県と続いていく今後の国体の成功の継続を祈念している。

成年男子　優勝　埼玉県

埼玉県成年男子監督
佐藤 良彦（大崎電気ハンドボール部）

はじめに、第70回国民体育大会2015紀の国わかやま国体を開催するにあたり、ご尽力をいただいた日本ハンドボール協会、地元和歌山県ハンドボール協会、ならびに関係各位の皆様に改めて、心より厚く御礼申し上げます。

この度、2015紀の国わかやま国体において4年連続21回目の優勝を果たすことが出来ました。これも一重に日頃から大崎電気ハンドボール部を支えてくださっている渡邊オーナーをはじめ、大会等で職場を不在にした際も仕事のフォローをしてくださる従業員、職場の皆様、そしていつも温かい応援をしてくださるファンの皆様の力があってこその結果だと思っております。





今回はリオデジャネイロ・オリンピックアジア予選に向けた合宿の為、8名の全日本選手が不在という状況の中で、残りの14名の選手が自分の役割をしっかりと果たし、最後までチーム一丸となって戦ってくれた結果、優勝することが出来ました。今回の結果は全日本選手不在の現チームにとって、すごく自信になったと感じております。

今後、日本リーグでも開幕戦から全日本選手不在の状況で試合が組まれている為、今回のメンバーで試合に臨むことになりますが、日本のトップリーグの試合を楽しみに観戦しに来てくださるファンの皆様に満足していただけるよう、もっと強く、魅力あるチームを目指して選手、スタッフ一丸となって日々精進していきたいと思います。

今後とも大崎電気ハンドボール部を宜しくお願い致します。



3点共【写真提供】スポーツイベント社

成年女子 優勝 石川県

石川県成年女子監督
荷川取 義浩（北國銀行ハンドボール部）

始めに第70回国民体育大会の開催にあたり、ご尽力を賜りました日本ハンドボール協会並びに和歌山県ハンドボール協会、国民体育大会実行委員会をはじめとします関係各位の皆様方へ心より感謝申し上げます。

この度の第70回国民体育大会において、3年連続8回目の優勝を達成する事が出来ました。これも一重に日頃よりご支援・ご声援を頂いております石川県ハンドボール協会並びにサポーターの皆様方、ご家族の皆様方、そして、チーム強化に強力なバックアップをして頂いております深山相談役、安宅頭取をはじめとします役員・行員の皆様方のおかげだと思っております。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。試合会場においても多くのボランティアの皆様方が、設営・運営に携わって、心温まる大会を演出して頂きました事も重ねて、心より御礼申し上げます。

さて、今年はリオデジャネイロオリンピックアジア予選を控え、日本代表選手の欠場で、各チームともに主力選手を欠く中、どのチームにも優勝のチャンスがあったと思います。残り部隊の意地で、3連覇、優勝を目指しての大会入り。1回戦は福島県、大学生を中心とした若いチーム、勢いを持たれないように注意しながらも勝利し、準々決勝に進出しました。

準々決勝は、香川県との対戦。立ち上がりディフェンスが機能し、6対1とリードします。その後は、一進一退の攻防が続き、15対7で前半を終えます。後半は4連続失点を喰らう等、粘りに合いながらも何とか逃げ切り、21対16で準決勝進出を果たしました。

準決勝は広島県（広島メイプルレッズ）との対戦。今年度は初の対戦でもあり、予断を許さない戦いでした。序盤は全くの互角、中盤にディフェンスが安定してリードを奪い、14対4で前半を終えます。後半は昨日同様に3連続失点を2度される等相手の粘りに合いながらも前半のリードを有効に活かし、22対14で決勝進出を果たしました。

決勝は、鹿児島県（ソニーセミコンダクタ）との対戦。序盤は2点リードを許す展開。中盤は何とか盛り返して、残り10分で12対12の同点。20分から2連続得点を2度挙げて、2点のリードを奪い、前半を16対14で終えます。後半も10分までは互角の展開で20対18とリードを保ちます。そこから4連取で24対18と抜け出し、残り15分追い上げられる場面もありましたが、28対25で勝利し、残り部隊の意地で掴んだ3年連続8回目の優勝を飾る事が出来ました。

この結果に満足する事無く、多くの皆様方に夢と感動を与えられるようより一層精進致しますので、今後ともご支援・ご声援を宜しくお願い申し上げます。

石川県成年女子
寺田 三友紀（北國銀行ハンドボール部主将）

始めに第70回国民体育大会の開催にあたり和歌山県国民体育大会実行委員会及び日本ハンドボール協会、和歌山県ハンドボール協会の関係者各位の皆様方に心より感謝申し上げます。

今年はリオデジャネイロオリンピックアジア予選の開催間近ということもあり、日本代表選手が国体に出場できず当行も5名の主力選手が抜けたメンバー構成となりました。若手選手が多く試合経験の少ないメンバーであることからコンビも合わずDFもバラバラ、さらに周りからは5名が抜け今年の国体は難しいとの声も聞こえ、当初は不安ばかりが先行し、ただひたすらボールを追いかける日々でした。しかし、みんなの優勝するという思いはひとつでした。

職場をはじめ関係の皆様のご協力で国体チームとして8月から遠征試合を数多くさせていただき、チームとして戦える力が付きチームが成長していきました。試合では基本的なプレーを徹底し積極的なDFから速攻を心がけ優勝を勝ち取ることができました。これまで試合に出場できなかった選手がこの国体で力をつけ、個々の技量がアップするとともに北國銀行としてチームの力も増したのではと思っています。

私は今回主将という大役を任されましたが、不安の中チームを1つにまとめる苦労、そして勝つことで味わう喜びに感謝をさせてもらいました。全日本社会人選手権大会、国民体育大会と2冠を取ることができ嬉しく思いますが、まだまだ経験未熟な選手が多いチームなので波のある試合展開であったり、課題もたくさんあります。この後続く日本選手権、リーグに向けて気を引き締め戦っていきたいと思います。そして応援して下さる皆様に恩返しできるように頑張りたいと思います。北國銀行をはじめ協会、サポーターの皆様にはこれまでと変わらぬご支援、ご声援よろしくお願いいたします。



【写真提供】スポーツイベント社

少年男子 優勝 大分県

大分県少年男子監督
平井 徳尚

大分県勢悲願の初優勝～皆様に心から深謝～

第70回紀の国わかやま国体の開催、運営に携わって頂いた全ての関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

おかげさまを持ちまして第70回という節目の年に大分県勢初優勝をすることができました。今回の優勝は大分県全体の悲願でありました。これも日頃から、ボールもキャッチできない頃から熱心に育て上げてくれた小学校の指導者の方々、多感な時期に生徒に向き合い大切に育ててくれた中学校の指導者の方々、関わって頂いた皆様の力が結集されたおかげさまであります。今大会は大分雄城台高校8名・大分高校4名の選抜チームでした。大分雄城台高校はインターハイ準々決勝では逆転負けで悔しい敗戦を味わい「和歌山でリベンジする」と誓い帰県し、翌日から大分高校4名と合流して練習開始しました。九州ブロックを突破し、9月はトヨタ紡織九州の胸を借り、強化をさせて頂きました。選手達は「必ず日本一」と公言して強い決意を持って大会に乗り込みました。初戦から難敵の埼玉県・準々決勝の大阪府を無事突破して、準決勝の大一番の山口県を迎えました。日本で一番練習ゲームを行い、互いの手の内を知り尽くしていました。最後までお互いの意地がぶつかり合うゲームでしたが、選手たちが「結果を恐れずに目の前の1本に集中することのみに集中する」という大会前から取り組んできた成果を苦しい場面で発揮して激戦を乗り越えてくれました。決勝戦は、同じ日本体育大学の2年後輩の大房監督との対戦をさせて頂きました。同じ釜の飯を食べた後輩と決勝戦という素晴らしい舞台で対戦でき、感慨深いものがありました。選手達に胴上げをしてもらったときは心の底から「選手たちの頑張りへの感謝」が湧き上がってきました。またいつも温かく、苦しい時ほど支えてくれた日本体育大学の恩師の松井幸嗣先生に電話で「おめでとう」と言ってもらえた時に涙がこぼれ落ちました。さらにたくさんの方々から激励の電話やメールを頂き、改めて今回の優勝はいままで支えてくださった多くの方々のおかげさまであると実感させてもらいました。これからも日日全力で取り組み、少しでも恩返しができるように励みます。今後も皆様からのご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。皆様に心から深謝致します。

3点共【写真提供】スポーツイベント社

少年女子 優勝 東京都

東京都少年女子監督
石川 浩和

この度は、第70回の節目にあたります国民体育大会少年女子の部にて、優勝させていただきました。お世話になりました大会関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。

2月に、東京都ハンドボール協会から「国体少年女子チームの監督を」とのご指示をいただいたとき、辞退する旨を申し上げました。というのは、そのとき戦力最高と自他共に認める学校が他にあったので、その強力校の指導者が監督に就くべきだと考えたためです。しかし、「理事会での判断・決定」ということで、私が引き受けることになりましたので、思い切って私の学校単独のチームではなく、選抜チームを編成したいと強化本部長に願いを申し出たところ、深く理解いただいて快諾を得ました。何故かというと、それは、3位に終わった昨年の長崎国体で、「愛知県全体の総合力に負けた」と、つくづく思わされたからです。ある1校の単独チームが県代表として出場したのではなく、選抜チームでした。周知の如く、愛知県はハンドボール人口が日本最多です。まさに、「愛知の底力」でした。それに対抗するには、やはり「東京の底力」でなければならない、そうでなければ〈国民体育大会〉という名称にそぐわないと考えたのです。選抜された選手は、結果として6月のインターハイ都予選での決勝を戦った私の学校と強力校との2校の部員たちになりましたが、全員揃った合同練習は約2ヶ月間で7回行なっただけに終わりました。それでも、強力校から選抜した5人の選手たちは、徐々にモチベーションを高め、しだいに私の意図を理解してくれて、インターハイまでは最強のライバル同士だった2校の選手たちに一体感が生まれ始めました。そして、大会直前には、「ともに東京都代表なのだ」という思いを強く抱くようになってくれたと思います。

それが功を奏してか、寄せ集めチームでは勝てないだろうという声も耳にしていたものの、初戦の京都府戦から、山口県戦、準決勝の大阪府戦と、接戦の連続、延長戦でしたが、ともあれ勝利できました。自校の選手たちが、地味ながら堅実なプレーをしてくれる一方で、強力校の選手たちは鮮やかなプレーを発揮してくれました。決勝戦は水害で苦しんだ茨城県代表でした。大会前、練習場所に苦労していると聞き、自校に招いて、2回、合同で練習をしたので、互いに手の内を知る戦いになり、1点差でなんとか勝てました。試合中、どの選手も、もっと長くコートにいてプレーし続けたいと思っただろうに、私の繰り出す交代の連続という采配に、素直に従ってくれました。優勝決定後、強力校の選手たち一人一人と「ありがとう」とつい涙目で挨拶を交わしました。（応援にきてくれた私の学校の関係者や選手の保護者たちからは、「強力校の選手だけと涙を流して……」と叱られましたが、本当に東京都代表チームになれた感じがしたのです。）

心に残ったことの一つに、優勝直後の会場内でのインタビューがあります。強力校のエースであり、東京都代表チームでも大活躍をしてくれたR選手の言葉です。「私たちは3連覇（春の高校選抜、夏のインターハイ、秋の国体の3大会優勝）を狙っていました。でも、インターハイに（予選の決勝で敗れて）出られず、（だから）国体にも出られないかと思っていました。でも、こういう形でも、仲間と国体に出られて優勝できて良かったです」。このように、彼女は涙ながらに言ってくれたのです。

優勝後、色々な方から私の采配をお褒めいただきました。冷やかし半分で、「いやぁ、石川さんも、名指導者になったねぇ！」と。とんでもないことです。おこがましさを承知で敢えて申しますと、「ハンドボールは、そしてスポーツは、選手一人一人のためにあります。監督もコーチもトレーナーも観衆も、その選手を最良のプレーの発揮へと導くために存在しています。さらには、学校の、地域の、国家の名誉を輝かせる一助になるために存在しています。自分の手柄などというちっぽけな誇りは脇においておくはずのものです。」（実は、これは私の敬愛するスポーツ関係者からかつて諭された言葉で、私の座右の銘です。）東京は日本の都です。五輪を2度も開催しようという都市です。都代表チームは他の道府県の範となるという思いを心中密かに抱き、さりげなくそれを実現することが、都民からも都行政からも期待されている（と勝手に）思っております。

最後になりましたが、東京都少年女子チームに物心両面に渡りご配慮くださった樋口理事長、いつも私の背中を強く押してくださる松本国体強化本部長の両氏に深く感謝したいと存じます。



【写真提供】スポーツイベント社

戦評

成年男子

【決勝】埼玉　29（11 − 11, 18 − 9）20　愛知

埼玉県が国体４連覇をかけた決勝戦、埼玉のスローオフで開始。埼玉・岩永のシュートで先制。すかさず愛知・津屋がミドルで返す。埼玉が点を取っても、愛知がすぐに返す展開で７分で４対４の同点。埼玉は高いディフェンスから速攻を仕掛け、埼玉・夏山、岩永が得点。愛知も内海がサイドから得点を決め１点差。埼玉・時村がパスカットから速攻を決め、取られたら取り返す攻防で前半15分で埼玉８対6。埼玉・豊田がカットインで３点差。愛知・津屋がロングを決めるも直後に埼玉・馬場がカットイン。その直後に愛知・香川がカットインと一進一退の攻防が続き20分で埼玉10対8、ここで愛知がタイムアウトを請求。愛知が１点差に迫ったところで埼玉がタイムアウト。愛知・髙木のポストが決まり、26分で11対11の同点。埼玉が再三攻め込むが愛知ゴールキーパー加藤の気迫あふれるセービングに阻まれる。同点のまま前半を折り返した。

後半は愛知のスローオフで開始。愛知が攻め込むも埼玉はディフェンスからの速攻で２得点。さらに埼玉・東長濱のカットインで３点差。埼玉17対12の５点差となった８分に愛知がタイムアウト。埼玉の勢いは止まらず、15分で埼玉21対13の８点差に開いた。愛知は7mTを２本決めるなど追い上げるが、埼玉は馬場、柴山のミドルなどで応戦し20分を過ぎて逆に点差は10点に開いた。愛知はパスカットからの速攻を２本決めるなど、猛然と攻めるが、埼玉ゴールキーパーの村上に再三チャンスを阻まれる。点差が縮まらないまま29対20でタイムアップ。埼玉が国体４連覇を成し遂げた。

成年女子

【決勝】石川　28（16 − 14, 12 − 11）25　鹿児島



成年女子決勝戦、鹿児島のスローオフで試合が始まる。開始早々鹿児島・諸岡のサイドシュートが決まるがすぐに石川･後藤がシュートを決め、序盤から点を取り合う試合となる。鹿児島は、開始９分から石川･河田に３得点を決められ、石川･寺田の好セーブなどもあり、２点差になったところでタイムアウトを取る。その後じりじりと鹿児島が追い上げ18分藤田の7mTが決まり、同点に追いつくもすぐに石川・大山、永田の連続得点で再び引き離される。その後､両チーム一歩も譲らないまま16対14､石川が２点リードで前半を終了する。

後半開始直後石川・八十島のサイドシュートが決まり、さらに、河田のシュートや武藤のサイドシュートが決まり４点差に広げ試合の流れをつかむ。それに対し、鹿児島は10分諸岡がサイドからの鮮やかなスカイプレイでシュートを決めるが試合の流れを取り戻せないまま14分石川・永田のポストシュートでこの試合最大の５点差となる。ここで試合の流れを変えたい鹿児島がタイムアウトを取り直後に連続得点、その後、両チーム一進一退の攻防が続き、両チームゴールキーパーの好セーブによりなかなか連続得点が奪えず、得点差が縮まらないまま28対25でタイムアップ。石川が見事３連覇した。

戦評

少年男子

【決勝】大分　34（18 − 13, 16 − 16）29　富山

少年男子決勝戦は、古豪富山と初優勝を狙う大分の対決。試合は富山のスローオフからスタート。立ち上がりは両ゴールキーパーの堅守が目立つ。3分、富山が早々にファウルによる退場者で一人欠く中、中田のミドルシュートで先制。富山が巧みなポストパスを織り交ぜた攻撃を見せる中、大分はクイックスタートで押し込み、前半10分で7対7と全くの互角。大分・山本の両腕から放たれるミドルシュート、富山は中田のロングシュートで点の取り合いの様相。18分、大分・山田のポストシュートを皮切りに、徐々に流れが大分に傾く。富山は服部のブラインドシュートで得点するものの、21分にファウルでの退場を出し、なかなか流れに乗れない。大分の速攻によるノーマークを富山ゴールキーパー横山が立て続けに阻止し、反撃の機会を待つ。富山はディフェンスラインを高めに上げ、村井の速攻が決まるが、大分が5点リードする形で前半を終える。

後半、流れを変えたい富山は、起点となる大分・山本をマンツーマンでマーク。しかし、大分が広沢のサイドシュートを含む連続6得点で、開始6分間で11点差とさらに差が広がる。しかし富山は、9分にゴールキーパー横山の好セーブをきっかけに、パスカットから屋敷の速攻、前のカットインなどで反撃を開始。14分、富山・千葉のポストプレーが大分の退場を誘い、堀川が落ち着いて7mTを成功させる。その後、富山・前のサイドシュートなどが決まるも、大分・本田が要所で確実にシュートを決め、残り10分で点差は7点。ディフェンスラインを挙げ、最後まで逆転を狙った富山だったが、大分・橋口が負傷後にもコートに戻るなど、勝利への執念を見せた大分が初優勝を飾った。

少年女子

【決勝】東京　22（8 − 12, 14 − 9）21　茨城

少年女子の決勝戦、共に準決勝を接戦で勝ち上がったチームの戦いとなる。試合は茨城のスローオフで始まる。開始20秒、茨城が小林のサイドシュートで先制する。勢いに乗った茨城が4連続得点。相手に傾きかけた流れを止めたい東京はここでタイムアウト。前半5分、東京・金城のミドルシュートが決まり、東京が初得点を挙げる。直後に茨城に退場者が出て東京・初見が7mTを決め、東京が連続得点。徐々にリズムを取り戻したかと思えたが、茨城・竹谷を中心とした茨城の堅いディフェンスに思うように得点が上がらない。その間、茨城・渡辺の活躍もあり、着実に得点を重ねていく。前半21分茨城・渡辺のシュートが決まり10対6、東京もこれ以上離されまいと必死の応戦、東京・大沢の好セーブから櫛田、吉田がシュートを決め、食らい付いていく。12対8、茨城4点リードで前半終了する。

後半、流れをつかみたい東京は高めのディフェンスから茨城オフェンスにプレッシャーをかけていく。後半4分で茨城に退場者が出て、徐々に流れが東京に傾き始める。その後、東京・大沢の好セーブからリズムを掴んだ東京が後半10分青の得点で同点に追いつく。その後も東京の勢いは衰えず、速攻を絡めた攻撃から7連続得点で一気に逆転する。後半20分、20対17で東京3点リード、これ以上離されたくない茨城は相澤が速攻からシュートを決めるが、東京も金城がミドルシュートで対抗、簡単には相手に流れを渡さない。激しい攻防が続いたのち、ゲームは残り1分、ここで茨城・田沼のシュートが決まり茨城が1点差に迫る。茨城の最後の猛攻を東京が守り抜き、ここでタイムアップ。22対21で東京が10年ぶりの優勝となった。



団体旅行	・社員旅行 ・インセンティブ旅行 ・視察旅行 ・研修旅行 ・海外スポーツ遠征	・国内スポーツ合宿 ・貸切バス ・周年旅行 ・国内線航空券（個人・団体） ・国際線航空券（個人・団体）
イベント	・表彰・記念式典 ・各種セミナー	・各種パーティー ・国際会議
業務渡航	・海外航空券手配 ・海外ホテル手配	・査証手続き ・トラベルサポート
教育・研修旅行	・修学旅行 ・語学研修・ホームステイ	・各種体験学習 ・ゼミ・各種合宿
訪日外国人旅行	・公官庁主催招聘プログラム手配 ・訪日されるお客様に合わせたプラン	

AMOK Enterprise co.,ltd.

株式会社 エモック・エンタープライズ

観光庁長官登録旅行業第1144号（社）日本旅行業協会（JATA）正会員

●東京本社 〒105-0003 東京都港区西新橋1-19-3 第2双葉ビル2F
TEL 03-3507-9777 FAX 03-3507-9771

●大阪支店 〒541-0047 大阪市中央区淡路町4-3-8 タイリンビル7F
TEL 06-6203-7999 FAX 06-6203-7991

http://www.amok.co.jp/

第40回（2015～16シーズン）日本

1976年第一回の日本リーグは、男女各8チームが集まり開催された。以来、参加チーム数の増減や2部制の採用などの変遷を経て、今年の11月からの開催（1部制、男子9チーム、女子7チーム）で40回を迎える。開幕に当たり、全チームの監督が集まり、チームスローガンと抱負が語られた。又、アンバサダーの発表があり、自身も中学時代にハンドボール部に所属、現在「NGT48」に所属しキャプテンを努める「北原里英（きたはら　りえ）」さんが就任した。

更にハンドボール機構は、リーグ50周年に向けてアクションプラン「JHL CHALLENGE 50」、日本リーグ次の10年のために「CHALLENGE 2020」を発表、競技力向上やガバナンス強化を目指す今後10年間の改革案を公表した。





	チーム名	役職	氏名	スローガン
男子	大同特殊鋼 Phenix	監督	末松　誠	原点回帰
	大崎電気 OSAKI OSOL	総監督	岩本　真典	CONTINUE（継続）イチからの出発
	トヨタ車体 BRAVE KINGS	監督	酒巻　清治	原点回帰
	琉球コラソン	監督	東長濱　秀吉	NEXT ONE
	トヨタ自動車東日本 REGAROSSO	監督	中川　善雄	ONE TMEJ ONE REGAROSSO
	湧永製薬 WAKUNAGA LEOLIC	監督	中山　剛	Endless Challenge
	豊田合成 Blue Falcon	監督	畠中　益喜	CATCH THE DREAM
	トヨタ紡織九州 Red Tornado	監督	石黒　将之	Next Stage
	北陸電力ブルーサンダー	監督	前田　亮介	不撓不屈
女子	北國銀行 Honey Bee	監督	荷川取　義浩	ONE FOR ALL ALL FOR ONE
	オムロン ピンディーズ	ヘッドコーチ	黄　慶泳	ONE GOAL
	広島メイプルレッズ	監督	金　明恵	New Birth 完全燃焼3,600秒
	ソニーセミコンダクタ BLUE SAKUYA	監督	小藪　憲次	一人はみんなのために　みんなは勝利のために！
	三重バイオレットアイリス	監督	櫛田　亮介	超紫魂
	飛騨高山ブラックブルズ岐阜	監督	山川　由加	result（まだじゃない、もう3年）
	HC名古屋	コーチ	近藤　澄江	全員ハンド

ハンドボールリーグ開幕記者発表

男子
9チーム


大同特殊鋼 Phenix
監督　末松　誠


大崎電気 OSAKI OSOL
総監督　岩本真典


トヨタ車体 BRAVE KINGS
監督　酒巻清治


琉球コラソン
監督　東長濱秀吉


トヨタ自動車東日本 REGAROSSO
監督　中川善雄


湧永製薬 WAKUNAGA LEOLIC
監督　中山　剛


豊田合成 Blue Falcon
監督　畠中益喜


トヨタ紡織九州 Red Tornado
監督　石黒将之


北陸電力ブルーサンダー
監督　前田亮介





女子
7チーム


北國銀行 Honey Bee
監督　荷川取義浩


オムロン ピンディーズ
ヘッドコーチ　黄　慶泳


広島メイプルレッズ
監督　金　明恵


ソニーセミコンダクタ BLUE SAKUYA
監督　小藪憲次


三重バイオレットアイリス
監督　櫛田亮介


飛騨高山ブラックブルズ岐阜
監督　山川由加


ＨＣ名古屋
コーチ　近藤澄江

日本ハンドボールリーグ
中期計画
2015-2025

JHL CHALLENGE 50



～日本ハンドボールリーグ50周年に向けてアクションプラン～

JHL中期計画2015－2025

JHL理念

- スポーツ文化として地域社会と融合したハンドボールの振興
- オリンピック、世界選手権など国際レベルでの競技力向上
- 次世代の子供たちへ夢のあるハンドボールの環境づくり

JHLビジョン

- 日本リーグは、ホームタウンのみならず、広く深く地域に根差し、幅広い人々とコミュニケーションをはかりながら、ステイタスを向上させる。
- 日本リーグは、日本代表チームの強化拠点として活動します。並びに国際大会で活躍する選手、指導者並びにレフェリーを育成します。
- 日本リーグは、未来の大人である子供たちにとって夢のある豊かな環境づくりを推進します。

Commit

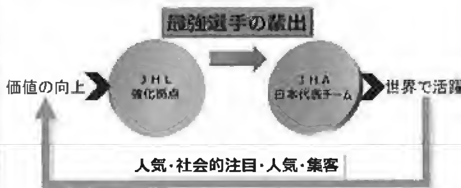
- 男女とも３回戦制を実施しＴＯＰチームの強化をします。
- 集客１試合平均２０００名にします。
- ＴＯＰリーグのチーム数を男女合わせて２０チームにします。
- 法人格を取得して自立運営をします。

CHANGE&CHALLENGE

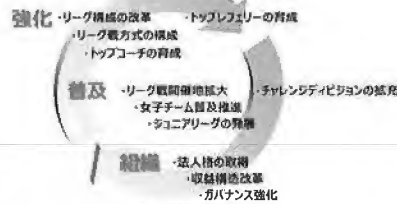
—日本リーグ 次の10年のために—



日本代表が世界で活躍するために
日本リーグは強くなければならない



日本リーグの基本戦略



日本リーグの基本戦略

強化の取組み

1. 日本リーグ構成の改革
2. 強化につながるリーグ戦方式の確立
3. トップコーチの育成
4. トップレフェリーの育成
5. ＪＨＬオフィシャルの技術向上
6. 外国籍選手出場制限の変更

日本リーグの基本戦略　強化

1. リーグ構成の改革

目的：競争力が高く、魅力あるリーグ戦の展開
目標：２０２０年　男女２部制へ移行
（下部組織強化、チーム数増の促進）

2. 強化につながるリーグ戦方式の確立

目的：日本代表チームを支える日本リーグの使命の遂行
目標：２０１７年　レギュラーシーズン男女３回戦完全の実施
（ホーム＆アウェイ＋第３地域開催）

日本リーグの基本戦略　強化

3. トップコーチの育成

目的：トップチームを強化できるコーチの育成
目標：２０１７年　資格制度の導入
（ＪＨＡ強化部・指導部との連携、ハンドボール５級制度）

4. トップレフェリーの育成

目的：トップレフェリーの不足解消、更なるレベルの向上
目標：２０２０年　リーグＯＢ／ＯＧの登用
アセッサー・インストラクター制度の導入

日本リーグの基本戦略　強化

5. ＪＨＬオフィシャルの技術向上

目的：競技運営レベルの向上
目標：２０１７年　ＪＨＬオフィシャル資格制度の導入

6. 外国籍選手枠の変更

目的：対外国人選手対応力強化に貢献
目標：試合２名、オンコート１名登録の撤廃

日本リーグの基本戦略

普及の取組み

1. ジュニアリーグの発展
2. 女子チームの普及推進
3. トップリーグ公式試合の開催地域拡大

日本リーグの基本戦略　普及

1. ジュニアリーグの発展

目的：加盟チームの地域貢献、
トッププレーヤーを目指す子供たちの育成
目標：継続に向けた安定した運営体制の構築
ＪＨＬ中学生大会の開催

2. 女子チームの普及推進

目的：女子トップチームの育成、活躍機会の改題支援
目標：２０１８年　女子チャレンジディビジョン新設
トップリーグ加盟に向けた支援体制の確立

日本リーグの基本戦略　普及

3. トップリーグ公式試合の開催地域の拡大

目的：トップリーグファンの獲得
地域ハンドボールの発展支援
目標：３年間未開催都道府県の低減
デモ開催大会の実施（支援）

日本リーグの基本戦略

組織の取組み

1. 社会的信用度の向上
2. 収益構造の改革
3. ガバナンスの強化

日本リーグの基本戦略　組織

1. 社会的信用度の向上

目的：トップリーグの一団体として自立
目標：法人格取得

2. 収益構造の改革

目的：助成金頼みからの脱却
目標：事業収入比率増大

日本リーグの基本戦略　組織

3. ガバナンスの強化

目的：運営組織としての自立
目標：ガバナンス委員会設置

第一志望は、ゆずれない。



大正７年、
東京高等受験講習会として
第一歩を踏み出してから
まもなく100年。
駿台は「愛情教育」を理念に
数多くの受験生の夢の実現を
支えてきました。
そして、これからも、
時代の流れとともに
歩みを進めながら、
教育の新しい可能性を
追求していきます。



札幌校
仙台校
お茶の水校 1号館・2号館・3号館・8号館
市谷校舎
池袋校
立川校
*町田校
大宮校
横浜校
*あざみ野校
*藤沢校
*千葉校
*津田沼校
*柏校
*浜松校
名古屋校
京都校
京都南校
大阪校
大阪南校
上本町校
神戸校
*西大寺校
広島校
福岡校

*現役フロンティア校

自由が丘校
吉祥寺校
川越校
横浜みらい校
丸の内校（名古屋）
京都駅前校
茨木校
豊中校
堺東校
西宮北口校

*印の校舎は、駿台グループ「駿台教育振興（株）」運営です。

総合案内



0120-55-2418（フリーダイヤル ゴーゴー ニューシトッパ）

駿台 検索

http://www.sundai.ac.jp/yobi/



「伝統と実績の100周年。未来へつなぐ愛情教育」2018年 駿台は創立100周年を迎えます









ガイドサポートを行っています
・ベビーカーお預り
・おむつ交換室／授乳室御案内
・お身体のご不自由な方へのサポート
・遠隔手話通訳(タブレット利用)／筆談(タブレット利用)
手話
筆談













リオオリンピック出場権獲得
—「政界産業界ハンドボ





福地和彦様



福井俊彦様



渡邉佳英 日本協会会長



市原則之 日本協会副会長



田口隆 強化本部長



栗山雅倫 女子日本代表監督

秋の香りを感じ始めた10月9日、東京･銀座において、政界産業界ハンドボール経験者の会（界友会）が、多くの方々の出席のもと開催されました。

司会をされたのは、福地和彦様（三井物産（株））。福地様が界友会の成り立ちを簡単に紹介された後、発起人のお1人でありました故塩川正十郎氏（2015年9月19日永眠、享年93歳）に出席者全員で黙祷を捧げました。その後、福井俊彦様（キヤノングローバル戦略研究所理事長、界友会会長）から、故塩川氏との国際会議におけるエピソードを交えながら、オリンピック予選では相手に合わせて戦略を練って戦ってほしい、皆様の応援をお願いします、との挨拶の後、乾杯の発声があり宴が始まりました。

しばらくの歓談の後、ハンドボール協会関係者の方々から、オリンピック予選に向けた挨拶がありました。まず、日本ハンドボール協会・渡邉佳英会長は、男女日本代表のオリンピック予選の日程を紹介され、そして、中国を倒してオリンピック出場を決めた女子バスケットボールやワールドカップで歴史的勝利を果たした男子ラグビーのように、強い相手を倒してオリンピック出場を果たすという決意表明をされました。続いて日本ハンドボール協会・市原則之副会長からは、協会として全力を上げてオリンピック出場を目指すとの力強い発言がありました。更に、女子については、強化が順調に進んでいるので、予選が行われる名古屋での応援を是非お願いしたいこと、男子については、ナショナルトレーニングセンターでの不祥事に触れつつ、予選の地カタールで汚名返上を果たすことを強く語りました。次に強化本部長の日本ハンドボール協会・田口隆常務理事から、オリンピック出場への要件についての説明、そしてオリンピックに出場してハンドボール界の歴史を変えるという強い決意表明がありました。その後、栗山雅倫女子日本代表監督が、ラグビー日本代表の快進撃に刺激を受けたこと、選手達が歴史を変えるために血のにじむ努力をしてきたこと、そして最大のライバルである韓国を倒してオリンピック出場という40年来の悲願を達成する決意を述べました。男子の岩本真典代表監督は､熊本で合宿中につき欠席されていたため､勝ってオリンピックに出場しますというメッセージが読み上げられました。

歓談を挟んだ後、出席者の方々から、激励の言葉がありました。奥正之様（三井住友フィナンシャルグループ取締役会長）は、栗山監督の挨拶に熱がこもっていて感動したと述べつつ、その熱さは選手にも伝わっているはずだと話され、ラグビーのように進化をしていくためには「One Japan One Goal One Team」が必要だと期待の言葉を述べられました。続いて迫本淳一様（松竹（株）代表取締役社長）はラグビーの快進撃はすごいと思うが悔しい、ハンドボールを何とか強くしたい、そのために歌舞伎業界に広めていきたい、とお話しになった後、片

に向け日本代表を激励する会
ール経験者の会」から―



岡千之助様（松竹（株）歌舞伎俳優）と中村宣夫様（松竹（株）歌舞伎俳優）を紹介され、この２人が歌舞伎界で有名になってハンドボールに貢献しますとの挨拶がされました。引き続き、片岡様、中村様からそれぞれ一言ずつご挨拶がありました。片岡様は４回目の界友会へのご出席で現在は青山学院高等部の１年生であり、右サイドを中心に様々なポジションを経験されているとのことで、歌舞伎と両立して頑張っていきますとの力強い発言をされました。中村様は中学２年生であり、ゴールキーパーを中心に他のポジションも練習しながら、部では副キャプテンを務めていらっしゃるそうで、これからハンドボールを勉強していきたいと発言されました。若い２人の決意表明に、会場から激励の言葉が飛びました。

その後、関西でハンドボールの普及活動に尽力されている、中村博幸大阪府ハンドボール協会副会長と繁田順子大阪府ハンドボール協会理事長から、現在大阪でリーグを立ち上げるべく動かれていることが報告されました。又、大阪ジュニアクラブでそれぞれコーチや監督を務められている渡井健次郎・弘枝ご夫妻は、中学生のクラブチームについて、クラブチームは部活ではないため出場できる全国大会が限られていたり、スタッフはボランティアでやっていたりと色々な苦労があるが、普及と強化という面でクラブチームが重要であると報告されました。

その後、ハンドボール振興議員連盟の方々から挨拶があり、農林水産副大臣に就任の齋藤健様（衆議院議員）は、ハンドボールに興味を持って応援してくれる人を増やすため、一人一人ができることをして、協力して前進していきましょうと言われました。中沢えみり様（墨田区議会議員・墨田区ハンドボール協会会長）は、ハンドボールの発展のため、日本リーグの試合を墨田体育館で行うなど、普及の一端を担って行きたいと報告されました。

最後に、多田博・日本ハンドボール協会副会長兼日本ハンドボールリーグ機構会長から、男子ラグビーや女子バスケットボールに続けるよう日本代表を激励していくこと、ハンドボールをやる小中高生を増やし育てて行くためにはクラブチームが重要になってくること、そしてこれからの日本のハンドボール界を少年少女に託していきたいとの中締めの挨拶があり、会は盛況のうちに終了しました。

当日はラグビー日本代表の快進撃が報じられて間もなかったこともあり、多くの方がそのことに触れながら、ハンドボール日本代表への期待を語られました。東京オリンピックにおける開催国出場だけではなく、予選を勝ち抜いてリオオリンピックに出場することは、日本ハンドボール界の悲願です。ハンドボール協会の強い決意だけでなく、地方でハンドボールの普及に努められている方々の取り組みや政界産業界の方々の激励など、悲願達成のため日本ハンドボール界が前進している印象を受けました。



奥正之様



（左から）迫本淳一様、片岡千之助様、中村宣夫様



（左から）中村博幸大阪府協会副会長、繁田順子大阪府協会理事長



（左から）渡井健次郎様、渡井弘枝様



齋藤健様



中沢えみり様



多田博日本協会副会長

2015NTS 北海道ブロックトレーニング

NTS 北海道運営委員長　篠原　理

●ブロックトレーニング全体総括・総評

NTS 北海道ブロックトレーニングが、8月29日～30日の2日間に渡り、函館大学体育館で行われました。スタッフ7名、対象の中学生10名、高校生14名、中学指導者8名、高校指導者7名の46名と、体育館での練習では一般参加希望の中学生と高校生と指導者120名余りが参加し、発掘・育成活動が行われました。

1日目は指導者向けに NTS 技術指導委員会ディレクターの豊田合成の吉村晃氏による指導者向けの説明・講義が行われ今回のトレーニングについての共通理解がスタッフ・指導者に図られ、そのことをもとにトレーニングが行われました。今年のトレーニングは「基本的なプレーの精度の向上を、強烈な『個』を目指して行う」を重点に、強く・激しい DF と、常に相手の脅威となる OF を目標に行われました。

1日目のメニューとしては、DF 面では

・6ｍ－9ｍのフットワークからの1対1を、ボールを意識しながら行う
・激しく強いコンタクトを意識して視野外からの OF への1対1
・クロスへの対応
・トランジションに対するチェックをしてからの1対1

など基本的な DF のトレーニングを激しく・強いコンタクトを意識しながら行いました。そのあと OF 面で

・常に投げることが出来る意識でのパスワーク
・前を狙うことを強く意識しながら、クロスや前クロス・ユーゴを織り交ぜながら3人のシュート
・ボールありの3対3

を常に相手の脅威になることを意識して行いました。宿舎では、夕食時に管理栄養士による食に関する講習も行われました。

2日目は、午前中の時間帯では1日目の復習を含めたアップを行い、各カテゴリー別に「強く激しい DF」と「常に相手の脅威となる OF」を意識し20分のゲームを行いました。

初日の指導者向けの説明は大変意義深く、参加した指導者も明確なビジョンの中で積極的に指導に携わることができました。その甲斐もあり参加した選手は、意識を高く維持しながらトレーニングすることができました。

2日目のゲーム形式練習の前にはモチベーション VTR を見ることができ、選手は意識を高揚させた状態で練習に望むことができました。

昨年度の反省を踏まえ、各参加校の指導者の協力を得ながら、一般参加者も同様の練習を体験することができ、積極的に参加することができました。最後に、デモンストレーターをかねていただいたスタッフの方々、函館大学の選手のみなさん、吉村晃氏には大変お世話になりました。心よりお礼申し上げます。

●各カテゴリーの指導ポイント

中学生・高校生

「強く激しいコンタクト」を意識した DF トレーニング
「クロスやトランジションなどの中でもしっかりとした強いコンタクトを継続する」DF トレーニング
「常にシュートを狙った体勢」を意識するパストレーニング
「常に相手の脅威となる動き」を意識した OF トレーニング

6m－9ｍのフットワークからの1対1のトレーニングでは、相手 OF に対してボールを奪いにいく意識も持ちながら積極的に強いコンタクトをすること、そしてコンタクトをやめないことが事前にアドバイスされた。その後のクロスやトランジションへの対応でも「強いコンタクト→継続」の意識を促され、選手はコンタクトの継続を常に意識し練習に取り組むことができた。その流れを組んだまま常に前を狙ったパストレーニングやシュート練習、そして3対3が行われ、常に強いコンタクトを継続使用する DF と常にゴールを狙う OF との攻防が意識され、非常に熱を帯びた練習になった。

選手の中には、時間がたつに連れてコンタクトの継続を忘れる選手や、前を狙うことができずに横を向いてプレーをしてしまう場面があったが、周囲からの声がけで意識しなおしていた。練習当初よりコンタクトが激しくなり、感情が表面に出る選手が多く見られるなどの変化があった。選手の中には、「得点した後のうれしさが以前と違った」「相手をストップしたときにより達成感があった」「抜かれたときの悔しさが、激しく当たっただけ大きい」などの声もあった。

2日目に行われたトレーニングでは、ゲーム形式の中で「強く激しいプレー」を意識した場面が多く見られた。モチベーション VTR での意識の高揚を図り、指導者も試合前のミーティングでチームに十分な意識付けを行い、非常に気持ちの入ったゲーム展開となった。女子中学生は今までにない攻撃的な DF 対応があった。ほかにも積極的なクロスアタックや、自分より大きな体の選手をホールドする場面も多く見られた。OF 面でも閉塞感を感じる時間帯は短く、常にシュートを意識した展開で攻撃することができていたと感じられた。

総じて中高生には「強いコンタクトの継続」「常に相手の脅威となる個人」が強く意識付けされたようである。「気持ちが高まった状態で試合や練習ができた、これからも意識していきたい」と感想を言う中学生もいた。これらの経験をこれからのトレーニングに生かそうとビデオやメモを取る指導者の姿も多く、大変有意義なものとなった。

【参加した選手の感想】

・激しく当たることを意識したので、失敗したときの悔しさが大きい、次は負けないという気持ちになる。
・強いコンタクトを続けることでどんどん前にいける気がした。
・得点につながらないプレーはないと思った。
・何度かコンタクトを忘れたので次はがんばりたい。
・自分より大きい選手でも前向きにぶつかっていこうと思った。
・基本的なことだけれども、基礎に忠実に行うことの大事さを再確認した。
・前を常に狙う体勢を作ることの大変さに気づいた。



2015NTS 近畿ブロックトレーニング

NTS 近畿運営委員長　**繁田 順子**

開催日時：2015 年 8 月 26 日（水）～ 27 日（木）
場所：大阪府 26 日府民共済 SUPER アリーナ（旧舞洲アリーナ）、27 日堺市家原大池体育館
参加者：NTS スタッフ 30 名（総数）補助指導者（延べ）81 名
選手：小学生 36 名、中学生 34 名、高校生 33 名

●総評

今年度、2 面使用可能な体育館が土曜日、日曜日に確保できずに、平日 2 日間の開催となりました。それに伴い、各カテゴリーでも夏休みが明けている学校が多く、選手本人、補助指導者、インストラクター、運営、技術指導委員、保護者の方にもご負担をおかけすることになりました。また、高校生で怪我のために直前に参加することができず、中学生で該当する生徒が学校の授業を優先し、代替選手も該当者が選出できずに参加者が少し少なかったのが残念でした。その一方で NTC 専任コーチングディレクター田中茂氏による指導者対象の研修会は予定時間を超過し、終了後も会場のあらゆる場所で田中氏と談義を開く様子が見られ、今年度も充実した意見交流を図れたと喜んでおります。そして、田中氏には各方面にアドバイスをいただきながら円滑で有意義なトレーニングを行うことができました。ありがとうございました。

さて、トレーニングの内容は、インストラクターの先生方に各カテゴリーに応じた内容を考えていただき、ウォーミングアップからフットワークで基本の大切さを選手も指導者も再認識していました。また、パスワークのトレーニングも指導者も刺激を受ける内容でアンケートに「充実した内容であった」「大変参考になった」という意見が例年より多く見受けられました。実際に昨年までよりフロアレベルで選手にインストラクターと同じ目線で指導や声かけをしてくれている場面が多く見られ、指導者にも好評を得ていました。

今後の運営面の課題としては体育館の確保と宿舎の確保です。そして、提出書類が増え、選手や保護者、チーム代表者にも伝わりにくいこともあったので、来年度に向けて改善していきたいです。選考面では 2 日間の限られた時間の中で、リーダーシップを発揮できる選手が少ないこととやはり、低学年からの選出に、各府県とも苦慮しているようです。

NTS のさらなる充実で、2020 年東京オリンピック、さらにその先のオリンピック出場に繋がることを祈念いたしまして近畿ブロックの報告とさせていただきます。

●指導のポイント

NTS 近畿ブロックインストラクター　石田 真由美

ハンドボールは「走」「跳」「投」といった運動の基本動作の高い競技であり小学生の時期に基本的な投動作を身につけることで、ハンドボールだけではなく、様々な競技の特性や楽しさを一段と味わうことができることを前提に、身体の柔軟性、体幹を習得するアップトレーニングを初めに取り入れました。

遊び感覚の中で、道具を使用しながら（コーン・ビブスなど）鬼ごっこをモデルとした、DF・OF の間隔を身につけさせたり、腕の振りの間隔を身につけたり、グループで競争しながらのフットワークを取り入れるなど、誰もができるメニューを導入し、幼少期から柔軟性・体幹を習得することで、身体の軸が作られ色々な動作の発展性に繋がるようにしました。

コミュニケーションを大切にして、自分の意思を伝え、プレーすることを指導し、パス 1 つだす時、もらう時に「はい！」と声をだし、存在感を味方にアピールする事を心がけさせました。

NTS 近畿ブロックインストラクター　明石 光史

今回、NTS2015 の指導マニュアルを基にして、近畿ブロックの中学、高校生へ指導を行いました。指導中に観察された主な特徴とそれに対して行った指導のポイントを報告します。

体幹トレーニングを兼ねたウォーミングアップでは、動きは理解して行えているのだが、上体がぶれ、体幹が安定していない選手が多く見られたので、上体の安定を意識させて指導しました。

セットディフェンスでは、1 対 1 の局面でオフェンスに対して詰めることは出来ていたが、コンタクトしながらついて行くことが出来ていない選手が多かったです。コンタクトしながらサイドステップと腕を使いついていくこと、クロス攻撃に対しても押し込まれないことを意識させて指導しました。

セットオフェンスでは、身体を大きく動かした後（特にアウト側に動いた後）のパスに正確性がなくミスが多かったです。身体の使い方、ボール保持位置を特に意識して指導を行いました。また、両足ストップからのスタンディングシュート、0 ステップジャンプシュートは、リズムを掴むことに苦労している選手が特に中学生に多く、詳細な全体指導や個別指導を行っていました。

全般的な印象としては、少し大人しく、プレーに関してもコミュニケーションに関しても自らを積極的にアピールする選手は少なかったです。常に声を出すこと、自らをアピールすることを全体としても、様々な場面においても意識するよう指導を行いました。

【参加選手の声】

- ディフェンスでは足の使い方、細かい守り方などを基礎から教えてもらい、活かしていきたいと思う。
- オフェンスでは、ディフェンスをどうかわすかとポストを使って 2 対 1 を作るかなどを詳しく教えてくださり、試合で活かしていきたいです。
- オフェンスで変則ディフェンスされたときに、どう攻めて 1 点を取りにいくかを考えてプレーしました。
- 自分で考えてプレーすることを教えてもらいました。これからでもすごく必要なことなのでこの経験を活かしていきたいです。
- 近畿の他の選手と 2 日間プレーすることができ、話をすることもできて、楽しかったです。
- たくさんの先生方に教わることができて、自分が一段階伸びるような指導をしていただき、自分の為になる 2 日間でした。



～まだ終わりではない～

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

来年行われるリオデジャネイロ・オリンピックの女子アジア予選で女子日本代表「おりひめジャパン」はアジアの女王・韓国にまたも苦杯をなめさせられ、モントリオール大会以来の40年ぶりとなる出場権獲得はならなかった。

オリンピックの舞台で地元ソウル大会など２度の金メダルに輝き、前回のロンドン大会でも４位と結果を出した韓国にどう立ち向かうのか。３年前の2012年10月に就任した栗山監督にとっては、ここまでの３年間は、すべてが「打倒韓国」に焦点を絞り鍛え上げてきたチームだった。

抜群の運動能力と高い技術に加え、試合巧者の相手をどう封じ、勝機を見出すか。機動性のある守り、運動量、速攻に磨きをかけるなど周到に準備をしてきた。同時に、欧州遠征では大型対策、当たりの強さなどを身をもって体験した。

しかし、攻守にわたって韓国に「個の強さ」を見せつけられた。一時、極端に高いディフェンスを敷いた陣形を含め前に出れば割って入られ、引いて守ればシュートを浴びるパターンで失点の山を築いた。一方、攻撃では激しいコンタクトプレーにパスが阻まれ、チャンスをつくってもシュートミスとGKの好守備に得点を積み上げることが出来なかった。それを証明しているのがシュート数と成功率。シュート数は同数ながら成功率は日本の46.7％に対し、韓国は何と77.8％と高率。はっきりと精度の差が数字の上でも物語っている。まさに明と暗がはっきり分かれる戦いになってしまったのは、誠に残念でならない。

昨秋の仁川アジア大会、３月のアジア選手権における２度の敗戦に続き、再び実力差を見せつけられたおりひめジャパン。現実をいやというほど見せつけられたと言っていいだろう。

基本に忠実なプレーにハイレベルな技術を合わせ持った韓国の試合展開に対し、おりひめジャパンは時間の経過とともに重圧からか焦りが加わり、鍛えてきたはずの自らのプレーも次第に影を潜めてしまう展開になった。

しかし、2020年東京大会を見据える上でも、まだリオをあきらめるわけにはいかない。リオへの挑戦権は残っている。来年３月の世界最終予選である。時間は限られるが、ここで立ち止まっていては、なにも始まらない。個の力と同時に総合力をさらにアップさせ、次に待ち構える戦いに向け前進するしかない。また、世界選手権での韓国の結果次第では、朗報が届くこともある。その日に備えた準備は欠かせない。まだ終わりではない。望みがつながる先を見つめて、気を引き締め、総力を結集したいものである。「春」を楽しみに待ちたい。

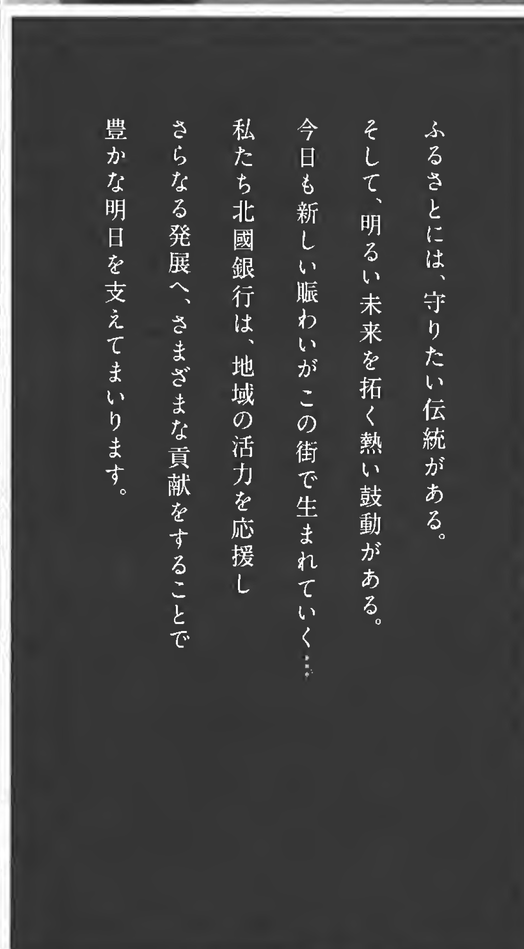
北國銀行



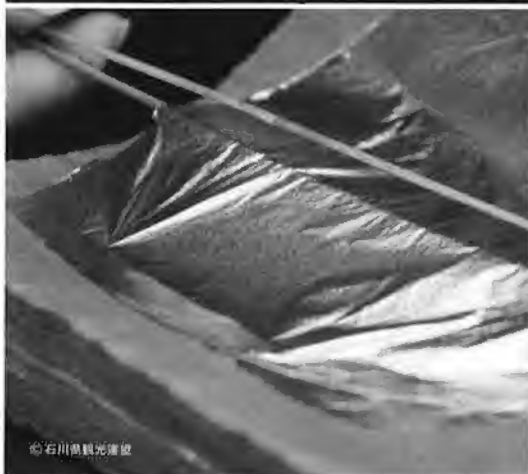











©石川県観光連盟

北國銀行は、ふるさとの未来と歩み続けます。

医療施設や介護施設、スポーツ分野など あらゆるシーンに対応した伊藤超短波の物理療法機器

コンビネーション刺激装置

「超音波」と「電気刺激」の
2つの効果を生み出す
コンビネーション治療器。





ULTRASOUND HI-VOLTAGE MCR

小型電気刺激装置

「TENS」・「EMS」・「MCR」を
搭載し、場所を選ばず治療が
できる小型電気刺激装置。





TENS EMS MCR

小型超音波治療器

スポーツの現場の声から生まれた
片手での操作が可能な
携帯できる小型超音波治療器。



防水機能搭載



ULTRASOUND

小型マイクロカレント治療器

いつでもどこでもセルフケアが
できる超軽量でコンパクトな
マイクロカレント治療器。





MCR

ULTRASOUND	HI-VOLTAGE	MCR	EMS	TENS
[超音波療法]	[高電圧電気刺激療法]	[マイクロカレント療法]	[神経筋電気刺激療法]	[経皮的電気刺激療法]
ミクロマッサージ効果と温熱効果により、疼痛の緩解や筋肉痛、関節痛を軽減します。損傷を受けた筋や靭帯の治療や関節可動域の改善に効果的です。	高電圧の刺激を加え、深部にアプローチします。疼痛の軽減、筋緊張や可動域の改善に対し、即効性が期待できます。	微弱な電流を流すことで、組織損傷の治癒を促進します。神経や筋を興奮させないためトレーニング後のクールダウンに最適です。	骨格筋および運動神経に電気刺激を加えて筋の収縮を引き起こし、筋力を強化します。筋萎縮の改善や筋力トレーニングなどに使用します。	疼痛の軽減を目的として、主に知覚神経に対し電気刺激を加える療法です。

測定装置

ヘモグロビン測定装置

ASTRIM FIT

採血せずに約40秒でヘモグロビン
推定値をスピード測定。
リアルタイムでコンディションを
把握できます。

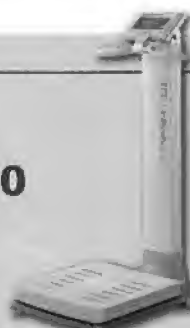


メーカー希望小売価格 398,000円(税別)
※医療機器ではありません。

体成分分析装置

ITO-InBody370

体の4大構成成分や骨格筋、脂肪、
部位別の筋肉バランスを高精度に測定。
整形・リハビリの指導や評価指標に
活用できます。



メーカー希望小売価格 948,000円(税別)
※医療機器ではありません。

審判部報告

（公財）日本ハンドボール協会レフェリーコースに参加して

東京都ハンドボール協会　藤澤 真理（国士舘大学）

今回、私達が参加させていただいた平成27年度（公財）日本ハンドボール協会レフェリーコース（前期研修会）は、第18回高校生ハンドボール長浜ドーム大会を実技の研修の場とし、滋賀県彦根市で8月10日（月）～12日（水）の2泊3日で開催されました。参加者は男女合わせて8名です。

初日は開講式のあと、越田義昭氏、岡辺清和氏、中山富夫氏による講義から始まりました。内容は、レフェリーに必要なものというテーマに始まり、笛は人格であること、身体能力と専門知識が大切であること、身体能力は肉体能力と精神能力の2つからなること、などでした。レフェリーは息切れもせず、プレーヤーの動きやベンチの様子、オフィシャルとのコンタクトを視野に入れ、ペアの吹笛と判定を意識しながら、笛の強弱長短を使い分けなくてはならないこと、そしてポイント指示や選手へ素早く近寄る、カードを上げるタイミング、罰則の基準作りなどは競技規則書やレフェリーハンドブックを何度読んでもできるものではないこと、自分の目標とするレフェリーになるために日々の研究が大切になってくることをご指導して頂きました。そして、試合会場の運営に携わる方々やその地域の方々への感謝を忘れてはいけないこと、つまり自分たちがゲームを担当できるのもコートを準備してくれた方がいて、これを当たり前のことだと思ってはいけないと教えていただきました。講義後半ではレフェリーの基本事項を学びました。この教えて頂いたことを自分のものにすれば、今後ゲームを担当していく中で更に成長できると考えました。教えて頂いた中で出た課題を今後の研修で克服していきたいと思いました。

2日目の実技研修では講義内容、罰則の基準、ジェスチャーなどを意識しました。今回のレフェリーコース受講生はペアでの参加が一組もなく、即席のペアでの実技研修でした。1試合目では、お互いの基準を合わせるのが難しくて譲り合ってしまうことがあり、そのときにはアイコンタクトをもっと取るようにとご指導を受けました。そこで、アイコンタクトを取り合いながら基準を徐々に合わせていけるように、さらに意識しました。即席のペアでしたが、今回5試合を吹かせて頂き、お互いに常にコミュニケーションを取り合いながら少しずつ判定基準を合わせられるようになってきました。2日目の講義では、浜田浩和氏に国際レフェリーとしての心構えや経験談などをお話しして頂きました。

この2泊3日は私たちにとって非常に有意義であり、最高の経験ができたと思います。年齢差はありましたが共にトップレフェリーを目指す仲間として、今後の活動でもこの経験を生かして互いに高め合っていき、後期研修の場で個々の成長を披露できるように頑張っていきたいと思います。

今回のレフェリーコースをサポートして頂いた講師の先生方、大会参加の顧問の先生方、地域の皆様方、会場を準備して頂いた方々に心より感謝を申し上げます。有難うございました。



第70回国民体育大会ハンドボール競技

開催期日：2015年9月28日（月）～10月2日（金）
会　場：和歌山・和歌山ビックホエールほか

【成年男子】

▼1回戦
長　崎　35（18－8、17－9）17　北海道
福　井　29（12－11、10－11）24　愛　媛
（2－1 延長 5－1）
佐　賀　29（13－3、16－13）16　千　葉

▼2回戦
埼　玉　36（17－8、19－14）22　長　崎
三　重　31（17－10、14－11）21　石　川
山　梨　46（13－15、22－20）39　岩　手
（7－1 延長 4－3）
広　島　36（18－9、18－12）21　兵　庫
宮　城　37（17－6、20－10）16　福　井
大　阪　31（13－9、18－14）23　東　京
和歌山　27（12－11、15－8）19　岡　山
愛　知　34（16－11、18－13）24　佐　賀

▼準々決勝
埼　玉　34（20－13、14－12）25　三　重
広　島　41（19－12、22－15）27　山　梨
宮　城　30（12－6、18－8）14　大　阪
愛　知　31（14－11、17－12）23　和歌山

▼準決勝
埼　玉　31（11－10、20－13）23　広　島
愛　知　23（12－12、11－10）22　宮　城

▼3位決定戦
広　島　31（12－16、19－14）30　宮　城

▼決　勝
埼　玉　29（11－11、18－9）20　愛　知

【成年女子】

▼1回戦
石　川　44（22－5、22－8）13　福　島
香　川　24（14－11、10－12）23　三　重
大　阪　26（11－7、15－14）21　千　葉
広　島　51（26－6、25－3）9　北海道
鹿児島　30（18－12、12－10）22　富　山
茨　城　27（15－13、12－11）24　奈　良
和歌山　33（19－5、14－7）12　岩　手
熊　本　23（10－9、13－7）16　東　京

▼準々決勝
石　川　21（15－7、6－9）16　香　川
広　島　26（15－12、11－8）20　大　阪
鹿児島　23（10－7、13－8）15　茨　城
熊　本　21（8－12、13－4）16　和歌山

▼準決勝
石　川　22（14－4、8－10）14　広　島
鹿児島　29（13－12、10－11）26　熊　本
（4－2 延長 2－1）

▼3位決定戦
熊　本　22（10－5、12－7）12　広　島

▼決　勝
石　川　28（16－14、12－11）25　鹿児島

【少年男子】

▼1回戦
愛　知　32（12－6、20－13）19　神奈川
香　川　43（20－8、23－9）17　北海道
富　山　33（16－9、17－16）25　和歌山
熊　本　33（19－8、14－10）18　秋　田
兵　庫　33（12－9、13－16）32　三　重
（1－1 延長 1－1）
（6　7mT　5）
山　口　34（17－8、17－13）21　千　葉
大　阪　39（19－13、20－16）29　岩　手
大　分　29（15－12、14－12）24　埼　玉

▼準々決勝
愛　知　30（16－11、14－14）25　香　川
富　山　28（16－14、12－13）27　熊　本
山　口　25（14－6、11－10）16　兵　庫
大　分　33（17－12、16－9）21　大　阪

▼準決勝
富　山　22（15－8、7－12）20　愛　知
大　分　25（12－10、13－13）23　山　口

▼3位決定戦
山　口　29（13－7、16－8）15　愛　知

▼決　勝
大　分　34（18－13、16－16）29　富　山

【少年女子】

▼1回戦
茨　城　48（24－9、24－7）16　北海道
京　都　23（13－10、10－12）22　沖　縄
愛　知　24（13－6、11－8）14　神奈川

▼2回戦
茨　城　14（6－6、8－7）13　香　川
福　岡　25（8－12、17－8）20　和歌山
三　重　28（13－4、15－7）11　福　島
岡　山　24（14－7、10－9）16　千　葉
東　京　26（14－7、12－7）14　京　都
山　口　25（8－12、17－12）24　石　川
熊　本　24（12－9、12－12）21　岩　手
大　阪　19（9－12、6－3）18　愛　知
（2－2 延長 2－1）

▼準々決勝
茨　城　22（10－6、12－9）15　福　岡
岡　山　25（14－8、11－10）18　三　重
東　京　33（15－13、11－13）28　山　口
（3－0 延長 4－2）
大　阪　29（16－6、13－11）17　熊　本

▼準決勝
茨　城　16（8－9、8－6）15　岡　山
東　京　22（10－7、7－10）21　大　阪
（4－2 延長 1－2）

▼3位決定戦
岡　山　25（11－9、14－13）22　大　阪

▼決　勝
東　京　22（8－12、14－9）21　茨　城

2019女子ハンドボール世界選手権大会のシンボルマーク決まる









24th IHF
WOMEN'S HANDBALL
WORLD CHAMPIONSHIP
KUMAMOTO / JAPAN 2019

シンボルマーク・コンセプト

火の国熊本の太陽の輝きを、女子ハンドボール選手の弾けるようなエネルギッシュな姿に置き換え、迫力とスピード感に満ちた世界選手権大会の魅力と醍醐味を、和をイメージした筆のタッチで表現しました。

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」10月入会・継続会員

【宮城】 福田　伸 **【茨城】** 浜田裕一 **【埼玉】** 齋藤忠男、齋藤ゆかり、小澤隆志、小澤智子 **【千葉】** 寺原智之 **【東京】** 泉　直樹、東尾吉信、寺嶋　潔、荒川晶夫、荒川留美 **【神奈川】** 島田信弘 **【富山】** 林　裕子 **【静岡】** 細澤　覚 **【愛知】** 平野　怜、滝　守功、西みどり **【三重】** 貝沼圭吾、橋本行弘、橋本由紀子 **【大阪】** 本田勝亮、伊藤慎吾、中塚冨佐子 **【広島】** 塩屋正子

【12月の行事予定】

【会議】……………………………………………………………

12月12日(土)　常務理事会

1月16日(土)　常務理事会

【大会】……………………………………………………………

12月5日(土)～ 20日(日)
第22回女子世界選手権…………………　（デンマーク）

12月22日(火)～ 27日(日)
第67回日本選手権………………　（愛知県・名古屋市）

12月24日(木)～ 27日(日)
第24回JOCジュニアオリンピックカップ
…………………………　（沖縄県・浦添市、那覇市）

1月4日(月)～ 6日(水)
NTSセンタートレーニング（高校生）（東京都・ANTC）

1月9日(土)～ 11日(月)
NTSセンタートレーニング（中学生）（東京都・ANTC）

1月9日(土)～
第40回日本リーグ・女子レギュラーシーズン…　（各地）

1月15日(金)～ 28日(木)
第17回男子アジア選手権…………………　（バーレーン）

HAND BALL CONTENTS Dec.

平成27年度第67回日本選手権開催とリオデジャネイロオリンピック女子アジア予選大会について
江成元伸……1
リオデジャネイロ・オリンピックハンドボール競技女子アジア予選……………………………………………2
予選を振り返り　強化本部長・田口　隆……………4
戦評：日本 vs ウズベキスタン ………………………5
戦評：日本 vs 中国 ……………………………………6
戦評：日本 vs カザフスタン …………………………7
戦評：日本 vs 韓国 ……………………………………8
オリンピック予選の周辺を見る………………………9
第70回国民体育大会ハンドボール競技
総評　山本隆重…………………………………… 12
成年男子優勝：埼玉県　監督・佐藤良彦………… 13
成年女子優勝：石川県　監督・荷川取義浩……… 14
主将・寺田三友紀
少年男子優勝：大分県　監督・平井徳尚………… 15
少年女子優勝：東京都　監督・石川浩和………… 16
戦評：成年男子、成年女子………………………… 17
戦評：少年男子、少年女子………………………… 18
第40回（2015～16シーズン）日本ハンドボールリーグ開幕記者発表…………………………………… 22
リオオリンピック出場権獲得に向け日本代表を激励する会―「政界産業界ハンドボール経験者の会」から―… 28
2015NTS北海道ブロックトレーニング　篠原　理… 32
2015NTS近畿ブロックトレーニング　繁田順子 … 33
フリースロー：まだ終わりではない　早川文司…… 34
審判部報告：（公財）日本ハンドボール協会レフェリーコースに参加して　藤澤真理……………………… 38
スコアールーム：
第70回国民体育大会ハンドボール競技 ………… 39
20万人会会員／12月の行事予定／もくじ ………… 40

（公財）日本ハンドボール協会 編　『ハンドボール』第五五六号

平成二十七年十一月二十六日印刷
平成二十七年十二月一日発行

東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表〇三－三四八一－二三六一
振替 〇〇一二〇－七－一〇二九三

編集兼発行人　川上憲太

定価　年間三三〇〇円